AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2020.3) 令和元年度:84.

開心術後患者に対する安全な早期離床の取り組みの成果と課題-
Outcomes of Early Mobilization for Open-Heart Surgery Patients-

酒井 周平, 島尻 麻由, 藤木 弥生, 片桐 実紀, 横山 直人,
井深 純志, 谷 紋佳, 村岡 法彦, 高山 拓也, 川嶋 勇平

開心術後患者に対する安全な早期離床の取り組みの成果と課題
Outcomes of Early Mobilization for Open-Heart Surgery Patients

〇酒井周平[1)]　島尻麻由[1)]　藤木弥生[1)]　片桐実紀[1)]　横山直人[1)]　井深純志[1)]　谷紋佳[1)]
川嶋勇平[2)]　村岡法彦[3)]　高山拓也[3)]
1)旭川医科大学病院 ICUナースステーション 2)札幌医科大学病院
3)旭川医科大学病院 リハビリテーション部

【目的】

A病院の集中治療室(以下、ICU)では、2018年度より早期離床プロトコールや理学療法士の専従化等の早期離床システムを導入した。先行研究では、早期離床は人工呼吸器の早期離脱やADLの獲得、ICU入室期間および入院期間短縮に有用であり、有害事象発生は1-16%とされている。これらより、術後早期からの安全かつ積極的な離床によって重症患者の早期回復が期待される。本研究は開心術後患者に対する早期離床システムの成果を明らかにし、今後の取り組みを定着させるための示唆を得ることを目的とした。

【方法】

診療記録を用いる後ろ向きの観察研究。開心術後患者を早期離床システム導入前(2017.4-2018.3)と導入後(2018.10-2019.3)の2群に分けて、主要評価項目である術後端座位や歩行実施までの日数、副次評価項目であるICU入院日数や入院日数、転帰、有害事象の有無、また患者背景について比較検討した。統計学的検定にはt検定やχ2検定を用い、有意水準は5%未満とした。対象は2017年4月から2019年3月における開心術後患者のうち、再開胸手術や術後急変した場合、小児を除外とした。本研究はA大学倫理委員会の承認を得た。

【結果】

導入前群136名、導入後群81名を対象とした。導入後群の方が術後の端座位開始(3.6日vs2.0日,p＜0.05)と歩行開始(3.8日vs2.7日,p＜0.05)が有意に短縮し、ICU入院日数(5.6日vs4.4日,p＜0.05)も有意に短縮した。また入院日数(25.0日vs20.0日)は短縮傾向にあり、退院割合(50.0%vs61.7%,p＜0.05)が有意に増加した。有害事象はなかった。患者背景は、導入前群の方が術中出血量(2804mlvs1670ml,p＜0.05)が有意に多く、年齢(69.1歳vs69.0歳)やSOFAスコア(9.9点vs9.6点)等に差はなかった。

【結論】

早期離床の取り組みによって有害事象が生じることなく術後早期から離床が実施され、ICU入院日数が短縮した。これからも重症患者の早期ADL再獲得や早期退院を目指し、早期離床の徹底を図る必要がある。